

『五つ星の出雲市』の実現に向けて～学校教育課の取組～

出雲市教育委員会では「五つ星の出雲市」の実現に向け、次の3点を目指して、各施策を行っています。その一部を紹介します。

- 1 地域に開かれ信頼される学校づくり
- 2 一人一人に生きる力を育む教育
- 3 一人一人を大切に教育

< 1 地域に開かれ信頼される学校づくり >

地域学校運営理事会による地域の学校運営への参画

地域学校運営理事会は、「地域・学校・家庭の三者が協働して、学校の教育活動に対して主体的・積極的に支援・協力するための組織」です。現在、斐川地域を除く全小・中学校（49校）に設置されています。

斐川地域については平成25年度内に設置する予定です。平成23年4月1日現在、全国では789校に学校運営協議会（出雲市における地域学校運営理事会）が設置されています。

地域学校運営理事会の主な役割は、「地域」の学校運営への参画にあります。理事会を通して地域の声を直接学校運営に活かすことができ、まさに「地域・学校・家庭の協働」が可能となります。

出雲市教育委員会では、理事の皆様方に理事会の役割を再確認したり、新たな視点から考えたりしていただくために、毎年1回、研修会を実施しています。今年度も1月21日（土）に、全国コミュニティ・スクール連絡協議会会長、三鷹市教育委員会教育長 貝ノ瀬 滋（かいのせしげる）氏の「地域とともにある学校づくり」と題する講演と「子ども・若者公民館活動」に取り組んでいる大社地域の発表を実施しました。今後目指すべき地域と学校の関係やあり方について、参加者には大変参考になったようです。

< 2 一人一人に生きる力を育む教育 >

ウィークエンドスクールによる学力向上支援

自主学習の場を提供することで、自律的な学習意欲及び学習習慣の定着を図り、児童生徒の学力向上を目指し、平成16年度から実施しています。今年度は市内10会場で、土曜日に年間26回実施しました。対象は小学校5年生から中学校3年生の希望者で、学校の学習等でわからないところを指導員が指導します。指導員は塾長・副塾長（塾長、副塾長とも元教員）及び学生で、無料で実施しています。

今年度は約330名の児童生徒が本スクールに参加し、自分の課題克服に努めました。

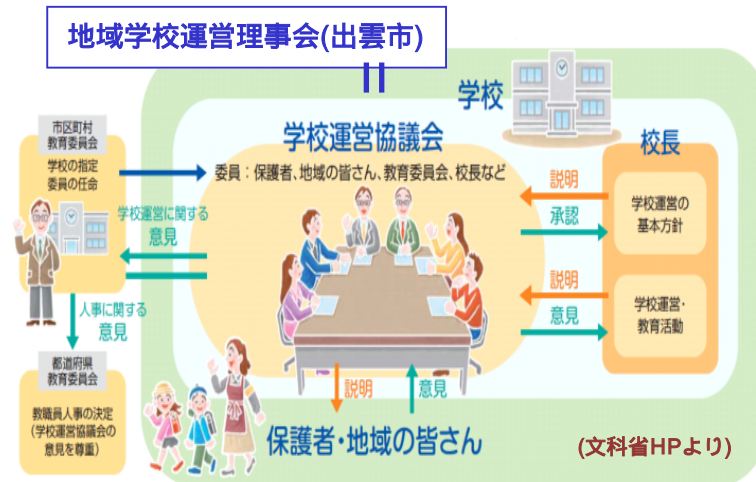
< 3 一人一人を大切に教育 >

フレンドシップ事業による人間関係づくり

「いじめを未然防止し、よりよい人間関係を築くことができる集団づくり」をテーマとして平成19年度に始まった本事業ですが、平成21年度から「ケータイ、ネット利用問題」を重点に加え、取組を進めています。

事業の中で最も力を入れているのが、中学校生徒会リーダー研修会です。この研修会は、いじめをはじめとする様々な問題の解決のために子どもたち自身の取組を進めることをねらいとしています。コミュニケーションづくりのワークショップ、いじめのない人間関係づくりをテーマとする話し合いを通して、参加者の問題解決に向けての意識と実践力を高めていきます。

小・中学校で人権集会が広く行われるようになったのは、この事業の成果の一つであると考えています。



地域学校運営理事会研修会



ウィークエンドスクールの様子



生徒会リーダー研修会

管内の教育

所報 第41号

- 主な内容
- 1 人として、人間として
 - 2 学校訪問指導 - 今年度の総括 - 事業の成果
 - 3 各市町より - 出雲市 -

出雲教育事務所
平成24年 3月



人として、人間として

所長 足立隆志

東日本大震災からの復興で始まった今年度もあとわずかとなりました。各学校や各機関では、成果や課題を整理しながら、新年度に向けての様々な取組が進められていることと思います。

この頃、教育にかかわってきた自らの基本的な考え方や見方はどこから来ているだろうと考えた時、ふと次のフレーズが浮かんできました。

「わたしたちは、人であり、人間である。」

それは学生時代に読んだ本の中か、講義か今となっては定かではありませんが、おそらく実存主義や当時の哲学的人間学の影響があったのだと思います。

「人であること」とは、言い換えれば個としての有り様です。その人が本来もっている資質を伸ばしたり、個性を開花させたりして生きていくことでしょう。

「人間であること」、それは人の間に生きていくこと、言い換えれば集団の中での有り様です。人よりよくかわり、社会とよりよくかわりながら生きていくことでしょう。このことは普段は念頭にありませんが、私が教育について語る時に、自然と思いつく見方、考え方となっています。未来を託す児童生徒が、人に育ち、人間に育つためにはどのような環境を創り上げたり整えたりしたらよいのか、といった見方です。

さて、この一年間、管内の児童生徒の「人として」「人間として」の育ちは、どうであったのでしょうか。そのための手立てや施策は、どうであったのでしょうか。

初等教育資料の本年1月号に「子どもの発見力から学ぶ」と題して、管内のある校長先生の文章が掲載されています。

A子さんのように、次から次へと「はてな？」を発見し、自分が納得いくまで粘り強く追究して価値ある発見をしていったすてきなモデルがもう一人います。…(略)…本年度の学習発表会では、愛華さんの生き方をモチーフに制作された県民参加のミュージカル「愛と地球と競売人」を愛華さんの後輩である六年生が全員で演じました。子ども達は、異口同音に「自分が地球を汚さないようにがんばることも大切だけど、みんなに呼びかけていくことがもっと大切なんだと思うようになりました。」と話してくれました。全員が一つになって多くの人に感動を与えることができた経験を通して、人と人がつながりあうことの大切さに気づき、愛華さんの遺志を真に継ぐための生き方を見つけたようです。一人一人の瞳の輝きが確かにそれを語っていました。

全文を載せていませんのでわかりにくいと思いますが、子ども一人一人の学びの育ちと社会的な育ちが見えます。「人として」「人間として」の両面からの確かな育ちが伝わってきます。

ところで、国の第2期教育振興基本計画が策定され、その基本的な考え方が示されました。教育振興計画に沿って国の教育諸施策が展開されますので、各学校へも大きな影響があり、その基本的な考え方を理解していくことはとても大切になります。この計画のキーワードに「社会を生き抜く力の養成」があります。多様で変化の激しい社会での個人の自立と様々な人々との協働に向けた力の育成が柱となっています。基本的な視点である「人として」「人間として」そして「そのための施策」の側面から私は読み進めてみようと思います。

新年度に向けて学校経営、学級経営、教科経営等々の見直しをはじめめる時期となります。この時期に自らの教育観に流れている基本的な考え方や見方を思い出してみたり、これまでの基本的な考え方を再構築してみたりかがでしょうか。

学校訪問指導 - 今年度の総括 -

本年度は、次の学校訪問指導を実施しました。
その訪問回数は表のとおりです。

表 平成23年度学校訪問指導の回数 (初任者研修を含む)

	第 群	第 群	第 群	第 群	計
小 学 校	155	123	21	20	319
中 学 校	51	38	12	27	128
高 等 学 校	0	11	0	0	11
教 研 研 修 会 等	0	7	7	8	22
計	206	179	40	55	480

第 群 市町担当指導主事による学校訪問指導

・年2回(前期、後期)の実施。1時間程度での全学級の授業公開と学力向上策の取組や成果についての説明・協議

第 群 教科等担当指導主事による学校訪問指導

・希望する学校からの申請に基づいた授業公開・研究協議
・希望する教育研究会等の申請に基づいた授業公開・研究協議や研修会

第 群 特別支援教育に関する学校訪問指導

・新設された特別支援学級・通級指導教室や新任担当者のいるすべての学校での授業公開・研究協議
・希望する学校からの申請に基づいた授業公開・研究協議
・希望する教育研究会等からの申請に基づいた授業公開・研究協議や研修会

第 群 生徒指導に関する学校訪問指導

・すべての中学校を対象に1時間程度での全学級の授業公開と生徒指導に関する情報交換・協議
・「スクールカウンセラー」・「子どもと親の相談員」配置の小学校を対象に1時間程度での授業公開と生徒指導に関する情報交換・協議
・希望する教育研究会等の申請に基づいた授業公開・研究協議や研修会

第 群 初任者研修に関する学校訪問指導

・すべての初任者研修対象者配置校において授業公開・研究協議・諸帳簿点検・管理職との協議・初任者研修対象者との面談(今年度は、教育センター指導主事とともに訪問しました。)

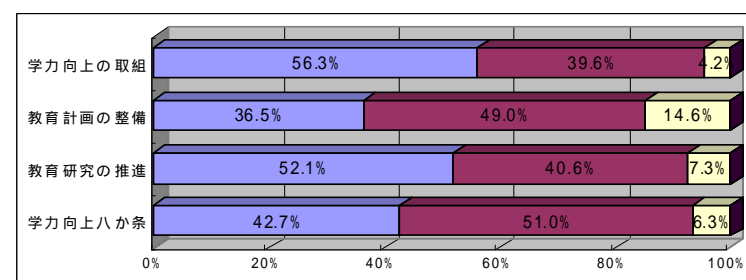
その他 県指定の事業に係る学校訪問指導

・管内県立高等学校の公開授業の参観と合評会への参加

昨年度と比較して、今年度は、各群の訪問回数が増えています。また、高等学校から「授業公開案内」があり、高等学校の授業を参観する機会も増えました。

今年度も、学校訪問指導についてのアンケートを実施しました。

第 群の訪問についての肯定的な回答は、「学力向上の取組」では95.9%(92校)、「教育研究の推進」では92.7%(89校)でした(図)。今年度の第 群の訪問では、学力向上策の取組について重点的に行ったこともあり、この2つのことについて、各学校の評価が高くなったと考えています。



図「第 群の訪問は、役に立ったり参考になったりしましたか。」

さらにこの訪問では「『学力向上八か条』- 授業改善からのアプローチ -」を紹介しました。中には、これを使って学力向上の取組を見直したという学校もありました。今年度の訪問で各学校からいただいた意見等をもとに、さらにこれを改善していきたいと考えています。

第 群についての自由記述では、学校の負担感の少ない形での訪問のあり方、年2回の継続的な支援に対して、多くの学校から肯定的な評価をいただきました。

一方、第 群から第 群の訪問について、次の点について意見をいただきました。

- ・研究職員会で職員と一緒に協議するなど、授業公開を伴わない訪問も行ってほしい。
- ・自校の学力向上や教育研究の参考とするため、特色ある学力向上や教育研究等の取組を紹介してほしい。
- ・現場のニーズに応じて臨機応変に訪問してほしい。 など

来年度の学校訪問指導の実施について、アンケートを生かした改善となるよう検討していきます。

各指定事業の成果

平成23年度 道徳教育総合支援事業 奥出雲町立仁多中学校区の幼稚園・保育所・幼児園・小学校・中学校
【三成幼稚園・亀嵩幼稚園・阿井幼稚園・三沢幼稚園・三成保育所・阿井保育所・布勢幼稚園・布勢小学校・三成小学校・高尾小学校・亀嵩小学校・高田小学校・阿井小学校・三沢小学校・仁多中学校】

研究主題：豊かな体験や多様な人との交流を通して、児童・生徒・園児の「人間関係調整力」及び「集団や社会の一員としての自覚とふるまい」を育む

事業の概要
幼・保・小・中の教職員が連携・協働して、学校、家庭、地域の実態を踏まえながら創意工夫を生かした道徳教育が積極的に推進されました。

取組の概要



「4つの柱」の設定と取組の整理
・交流活動を、「学校間交流」「世代間交流」「地域交流」「ふるまい向上」の4つの柱で整理、実践。

推進組織の構築

・全体会を中心として総務、会議、広報、財務、記録の役割分担とつながりを明確にし、各学校・園で共通して取り組む事項の決定。

活動振り返りの工夫と評価

・交流活動実施後は「実施レポート」を作成し、ねらいと概要や参加者感想等をつなげ、研究主題に沿った振り返りとなるよう工夫。

成果

「多くの子どもが興味をもって活動に取り組んでくれた。」「取り組みの大変さを理解してくれた。」等、地域の方々の多くの声があり、子どもの成長を多角的に実感することができました。幼・保・小・中・地域が連携した取組、全体会協議、各部会の協働等により、0才～15才までの子どもの成長を見据えながら教育することの大切さが改めて認識できました。4つの柱のプログラム実践により、地域の教育資源である「ひと・もの・こと」のさらなる有効活用が図られ、異校種交流や世代間交流等の人との交流が積極的に展開されました。

平成21年度～23年度 スーパースクール事業 出雲市立西野小学校

研究主題：意欲的に問題解決に取り組み、共に学び合う子どもの育成
～一人一人のよりよい学びを支える「西野スーパープロジェクト」～

研究の概要

学習意欲の向上や思考力・判断力・表現力を高める授業づくりを核として、それを支える基盤的な取組の充実を図りながら子ども一人一人の学力向上を図ろうとする実践的・組織的な取組が推進されました。

取組の概要

各学年部による教材研究・指導法の開発の推進 個々の授業力向上を図る授業研究・校内研究
スーパープロジェクト推進組織の確立 継続的な評価活動の重視

*特に にかかわり、次の5つのプロジェクトが推進されました。

授業力腕磨きプロジェクト 困り感呼応プロジェクト
自治力育成「あたりまえ」プロジェクト
図書館機能向上プロジェクト 愛華ちゃんプロジェクト



成果

各プロジェクトの推進より
考えを主体的に発表しようとする子どもの姿、友だちの考えと比べながら意見を述べようとする子どもの姿がみられるようになり、この学校で学ぶことへの誇りははくむことができました。教師一人一人が「授業における自己課題とその手立ての明確化」と「課題を意識した授業」を実施することが授業改善につながると共有できました。同じ課題を共有する教師が小グループを作り自己課題に沿って協議することにより、課題解決のためのより深い協議にすることができました。

シンポジウムより

シンポジスト：島根大学名誉教授 有馬毅一郎氏
中央教育審議会入部・青少年分科会臨時委員 土江博昭氏
島根県教育センター所長 三島修治氏
コーディネーター：出雲市立西野小学校校長 高塚寛氏
学力向上のキーワードは、「人材育成」「体験活動」「学校力」であり、特に次の3点が必要と考えられます。
・管理職やミドルリーダーの理解とリーダーシップ
・教室(学校)には限界があることへの理解
・体験活動(非日常的な体験)が成果を上げるのは、日常的な体験がしっかり行われていること